

龍谷顕真会会報

記念講演	
「実説・坊さんのいる風景」	関西女子美術短大教授 太田 信隆 2~7
平成3年度 活動報告	 7~10
総会、世話人会報告、会員の動静	 10~11



藤音総長の挨拶

総会風景



91.6/4.5



ばんざーい



全体会



初の女性会員登場



みんなそろってハイポーズ



熱っぽい議論も

少数激戦だった先の統一地方選挙で当選した九人が新たに本会に入会された。新会員の内わけは村長一人、道県議員三人、市会議員二人、町会議員三人。いずれも新進気鋭の人ばかり。活躍を期待している九人の中で注目されているのが本会初の女性会員となった兵庫県御津町議員の小泉玲子さん。ながらく保育事業にたずさわってきた経歴を「議員活動に生かしたい」と意欲のほどを披れきする。さらに「女性の目」から行政を見たいとも。坊守さんでもあるから超多忙のスーパーレディー。小泉さんの二人目、三人目の登場が待ちどおしい。

ひとところ僧侶で自治体の首長、議員に打って出る人が減少傾向にあったが、今回の統一地方選で増加に転じたように思われる。「僧侶は政治と無縁であるべき」といった不思議な「原則論」が今なお幅をきかすお寺社会。在家仏教たる真宗の僧侶が、お念仏の心をもって政治にたずさわることの意義ははかりしれない。僧侶だからこそなされる実績の積み重ねが「原則論」を変えていくことになる。

記念講演

実説 坊さんのいる風景

太田 信 隆



一、法衣で境内にいて
本願寺派発行の『宗報』に、「坊さんのいる風景」という読み物を書いておりました、太田信隆でございます。

この連載の読み物は、昭和六十二年（一九八七）の四月号から書きはじめまして、今年の三月号で終わりましたが、その前に「宗教ジャーナル」という題で、執筆していました

ので、通算してざっと十年続いたことになりました。

坊さんにまつわる話ー見たことと感じたこと、きいたこと、ときには自分の反省をこめて、文を綴りました。あえて文字にしくなくともよかったものを書いてしまつて、物議をかもしそうになったこともありました。

とにかく、長らく大勢の方々に読んでいただきまして。きょうのご出席者の中にも愛読くださった方がおいでであると思います。お礼を申し上げます。

さて、きょうの題は、「実説・坊さんのいる風景」といたしました。きょうの話が「実説」であれば、これまでの連載は「虚説」であつたのか、といわれますと、困るのであります。文字で書くのと、言葉でお話するのは、お伝えする事柄もかなり違ってまいります。

講師略歴

太田信隆（おた・しんりゅう）
昭和七年（一九三二）奈良県に生まれる。
龍谷大学文学部を卒業。NHKに入局、奈良・和歌山・大阪の各放送局で、記者・ニュースデスクを勤める。
現在、関西女子美術短期大学教授。龍谷大学講師。斑鳩町都市計画審議会委員。日本ペンクラブ会員。
奈良教区・誓興寺住職。
著書に『まほろばの僧』『新・法隆寺物語』などがあり、『宗報』に連載された『坊さんのいる風景』は、近く京都の探究社から刊行。

きょうは、ひとりの僧侶として考えていることを、できるだけありていに申し上げて、ご批判、ご意見をたまりたいと思います。

まず、「坊さんのいる風景」という題名であります。どうしてこういう題名をつけたかについて、お話をいたします。

私は、奈良の斑鳩に住んでいます。私の寺は豊臣秀吉のころに建立された歴史のある寺ですが、斑鳩にはもともと古い、聖徳太子ゆかりの法隆寺、法輪寺、法起寺があります。そして、三つの寺にそれぞれ飛鳥様式の塔がありました。

この三つの塔は、「斑鳩三塔」と呼ばれていたのですが、その一つ、法輪寺の三重塔が、敗戦の前年の昭和十九年の夏に落雷のために焼失しました。

戦後、老住職が、塔再建のために各地に向いて、勧進を始めました。生活するのが精

一ぱいの時代でした。なかなか基金は集まりませんでした。

幸田露伴の次女で小説家・随筆家の幸田文さんが、戦後の一時期、斑鳩に住んでおられたことがありました。塔再建の計画をきき、幸田さんが呼びかけ人になられたことなどもあって、募財の輪が広がり、三重塔は昭和五十年の秋、創建の姿そのままに復元されました。老住職はそのとき、すでになく、私より一つ若い子息が住職を引き継いでいました。

塔の落慶法要に私も招かれましたが、所用で参列できませんでした。それで次の日曜日に私はお祝いをもって、法輪寺を訪れました。落慶した句わんばかりの三重塔が、境内にそり立っていました。

見ると、その塔の下に、若い住職――井上康世さん――が法衣姿でたたずんでいました。「おお、井上さん、そこにいたのか。おめでとう」

と、私は多分、大きな声でいったらうと思います。私は、すごく感動していたのです。

さきほど申しましたように、私は奈良に住んでいます。奈良には、法隆寺とか、東大寺とか、古くて、大きくて、有名な寺があります。年間、何百万人という、観光客がやってきます。しかし、観光客たちは、これらの寺で、坊さんの姿を見ることは、めったにありません。奈良の「観光寺」では、「坊さんの

いない風景」が、あたりまえになっているのです。

私は、法輪寺で、「坊さんのいる風景」を目のあたりにしました。寺に坊さんがいることは、どんなに、訪れる人の心を満たすものか、私は、このときほど、それを感じたことはありません。

「あのなあ、井上さん。これからも法衣で、できるだけ境内におってください」

私は、思わず、いってしまいました。

なぜ、私は、こんなことをいってしまったのでしょうか――あとで、考えました。ほかでもありません。私が僧侶からです。私が僧侶でありながら、法衣をつけていることが少ない、それではいけないという気持が、一瞬、脳裏を駆けめぐり、こういう言葉で吹き出したのだと思います。自分に向けなければならぬ気持を、井上さんに吹きかけてしまいました。

「坊さんのいる風景」という題名は、このことに由来するのであります。

二、僧侶は不自由業か

私は寺に住みながら、ながらく兼職をいたしておりました。定年で退職しましてからも、学校の教員などをし、居住地域外におることが多うございます。法衣をつけているのは、本堂での勤行と、門徒のおうちへおまいりに

行くときだけです。一日のうちに、布袍をつけているのは、ごく短時間で、あとはほとんど洋服で過ごしています。

大阪や京都にも、門徒さんの家がありまして、電車やバスに乗って、おまいりに行くことがあります。そんなとき、私は法衣をかばんに入れて、スーツで出かけることが、ままありました。自分なりの理由があるんです。

洋服の方が動きやすい、また、行きや帰りに寄り道しても、――本屋で立ち読みをしたり、喫茶店に入ったりしても、電車の中で居眠りしても、――目立たない、自由に行動できるという「利点」があるからでした。

しかし、それは自分の得手勝手な理由であることは、当の本人が一番よく知っています。そしてまた、おまいりした家にしても、口でこそいわれませんが、やっぱり、法衣で来てもらったほうが、おまいりをしてもらった、という気になるだろう、と思うんです。

まあ、そんなわけで、最近では遠近を問わず、私はおまいりには、寺から布袍をつけて行くことにしています。

私の知りあいには、四六時中、布袍を着、くつろぐときも白衣という坊さんが何人もいます。僧侶としての自覚をもち続けるために、いつも法衣をまとっているのだ。人のためではない、わが身、わが心を律するためなのだ――などときかされますと、大いに考えさせ

られるのであります。

僧侶だから、常時、法衣をつけているべきである、とは、私は申しているのでは、ございません。こんなことが、ありました。

私が若いとき、というよりは、馳け出しの放送記者のときでした。近畿のある市の市役所を担当していました。市議会議員にYという人がいました。浄土系の宗派の坊さんでした。法衣で議会にやってきて、議席についていました。私は非常に「複雑な気持」で、記者席から眺めていたのを思い出します。「坊さん議員」だから、僧服が当然ではないか、といわれたら、その通りです。

町を歩いていても、駅などでも、坊さんの姿はよく目立ちます。出会って、ひと目で職業がわかるのは、坊さんとおまわりさんぐらいでしょう。

僧侶は、医者や弁護士や作家と同じ「自由業」という部類に入ります。しかし、いつも人から目を向けられていますから、あまり「自由」ではありません。毎日、朝から晩まで忙しくて、何が自由か「不自由業」よ、とおっしゃるかたも、おいででしょう。

五年に一回おこなわれます国勢調査では、僧侶は、大わくの分類で、サービス業のなかに入っています。礼拝を英語でサービスというから、というわけではないでしょう。直接には生産に関係しない職業だし、旅館、飲食

店、広告業などの仲間に入れておこうということになったのかもしれませんが。

これは、もう十年ほど前の話ですが、火災保険の代理店をしている友人が、どうしても加入してほしい、といいました。私は本堂と庫裡を一括して契約をしました。書類が送られてきました。「店舗総合」と書かれてありました。店舗と住宅とが接している物件という意味らしいのです。庫裡は住宅といわれてもよろしいが、本堂を店舗とよばれることには、納得がいきません。代理店にいうよりも書類を送ってきた保険会社に直接話した方がよいと思い、電話でこのことをたどしましたところ、返事はなはだふるっていました。

「おたくは、その建物で営業しておられるのでしょう」しばし、二の句が出ませんでした。

僧侶を職業と考えるのは、適切ではない、という坊さんが、以前いました。たしかに一般の職業と性格がちがいます。キリスト教国では、神父や牧師のことを「聖職」というそうですが、日本で僧侶を「聖職」といつても、ぴんとこないところがあります。

僧侶のどういうところが、ほかの職業と極だって違うのかといえますと、制度の上では法人から給与をもらっているかたちにはなっています。――布施をいただいて、生活していることです。布施は、法事などに対する、坊さんの労働行為への対価ではありません。

他宗では法要のあと、坊さんに「お経料」とかいて差し出すところもあるときいていますし、日当とはいわないまでも、報酬ぐらいには、考えている人が多いのではないか、と思います。

布施は本来、施主が仏さまに捧げるもので、僧侶は仏さまからそれを頂戴するのです、と、いくら説明しても、世間の人は、なかなかわかってくれません。

布施という、宗教生活者にとつての、とても大事なことが、額は云々されることがあっても、そのころには触れられません。不問にされているとは、思いたくないのですが……。

三、出演に耐えるか

ここに持ってまいりましたのは、きのう書店の店頭に出たばかりの『アメリカ合「宗」国の悲劇』という本です。（情報センター出版局刊）著者は生駒孝彰さんという方です。昭和十三年（一九三八）生まれで、龍谷大学を卒業後、本願寺派の開教使として渡米しました。アメリカの宗教事情にくわしく、テレビ伝道師のことを書いた『ブラウン管の神々』（ヨルダン社刊）という本も出しています。

現在は京都文教短期大学の教授です。

この『アメリカ合「宗」国の悲劇』の中に、「宗教と政治の密接なつながり」という小見出しがついていて、次のようなことが書かれ

ています。

「アメリカでは『牧師は政治家のような話をし、政治家は牧師のような話をする』という、やや皮肉なコメントをしばしば耳にする。牧師が政治家のような話をすると、宗教界が社会問題に深い関心を持つているのを意味する。一方、政治家が牧師のような話をすると、福音主義や覚醒運動で見られたものが、政治家の言動にうかがえるからである」

生駒さんはこの本で、アメリカの宗教界と、日本の宗教界を比較して、最も大きな違いは、アメリカでは多くの宗派や教派が、政治、経済、教育はもとより、社会のあらゆる問題について、独自の見解を発表する、そしてそれが、人々にかんりの影響を与えてきた——といっています。

日本の宗教界にも、世界平和や差別の徹底、あるいは環境汚染の問題に熱心に取り組んでいる人がいますし、大きな災害などには教団をあげての救援・募金の活動が展開されることがあります。ところが、「社会のあらゆる問題について、独自の見解を発表する」というような状況ではありません。

なぜだろうと考えてみるのですが、勿論、アメリカと日本では社会事情が違うということがありますが、日本の宗教界——私は仏教界ということで話を進めたいのですが

——は、社会の問題にかかわりを持つという気持ちが薄いのではないか、と思います。世事一般に、なんでもかんでも、論評をくだせばよい、というのでは、もとよりありません。社会の問題に対して、もっと関心をもつべきだ、と思うのです。

生命に深くかわる脳死・臓器移植問題で、仏教者の発言が、ようやく目立ちはじめましたが、これまで、仏教者で、傾聴できる意見をのべられる人が、少なかったことは、有識者の間で指摘されているところです。

たとえば脳死に関してのパネルディスカッションを企画されました、医学界や法曹界からは、パネリストの候補者は割り合い見つけやすいのですが、仏教界の「代表選手」を探し出すのが大変であるといえます。「公開の会場で、説得力のある論理を展開し、拝学者の「お面を一本」とれる仏教者はおらんですかね」と、友人のジャーナリストからきかれたことがあります。

坊さんは、生命に関することは勿論ですが、老人の問題、あるいは夫婦親子の問題などについて、平素からもっと意見をかわし、勉強する機会をもてないものだろうか、と思います。

葬式を受けるために、葬儀屋さんのおつきあいに、とても気を使っている坊さんがいます。そういう坊さんに限って、人生の問題

などについて相談されても、誠実な答えをしてはいません。「新聞にはこう書いてあった、雑誌にはこんな話が載っていた」とはいえても、「仏教では、こう考えるのです」といつてあげられなくては、坊さんとはいえない、と思うのです。

こういうことをお話すると、また響盤を買うことになるのですが、京都ではともかくとして、東京で発行されている仏教の雑誌に、本派の坊さんが登場するのが、非常に少なくなっています。おなじことは、新聞の宗教欄、テレビの『こころの時代』などでも、いえません。

私、放送局に勤めておりましたけれど、宗教の番組を直接担当したことはございません。しかし、担当者から、出演して頂くにふさわしい坊さんが、いかに少ないかをきかされました。極めて失礼ない方になります、出演にたえうる坊さんは、ほんに数えるほどしかいないのです。放送局側も、宗教番組の向上にもっと意を用うべきであります、宗教番組の低迷の原因は、宗教界の側にも大いにあります。

私は、マスコミに「歓迎」される、博識能弁な僧侶の輩出を望んでいるわけではありません。

現代社会に対応していける僧侶をふやすためには、どうしたらよいか。みんなで考える

問題ではありますが、さしあたっては、本山の強腕な指導と教育研修面での財政の充実に肝要と思われます。

四、左藤知事の口グセ

次の話に移ります。

今春、統一地方選挙が行われました。本派の住職で私の友人が、県議会議員選挙に立候補しました。この人をAさんと呼ぶことにします。

Aさんは四十歳代で、はじめての出馬でした。地元のゴルフ場建設計画の反対運動のリーダーであったのですが、運動を前進させるために、県議会に議席をもつということになり、住民推薦のかたちで立ったのです。定数は一で、相手候補は保守系有力者の推す年輩の元町議でした。

Aさんは、組内の寺をまわり立候補のあいさつをしました。が、「うちの門徒には、ゴルフ場建設の賛成の人もいますので、寺としては支援できません」といった住職が多かったということです。

またAさんの寺の門徒も、責任役員と門徒総代あわせて五人のうち、選挙事務所に来て応援してくれたのは、一人だったそうです。

私は選挙期間中に二回、電車でAさんのところに行き、陣中を見舞いました。

投票の結果は、惜敗といいたのですが、

かなりの差で破れました。

私はこの選挙で、寺の住職が選挙に立つ難しさを、垣間みたような気がしました。

ここにおいてになるのは、みんな当選された方々ばかりです。寺の住職が選挙に立つときの悩みや苦しみを、それぞれに体験されたことでしょう。いうにいわれぬ苦労を秘めておられることでしょう。

政治と宗教の問題を、ここで論じようとは思っておりません。地域社会を、自分の考えている方向に改善して行くために、自治体の首長、議員になることは、最も効力がある、と私も考えています。仏教者が社会の前進のために影響を及ぼしていく、そのありかたの一つとして、首長として、議員として活動されているのでありまして、本願寺派のそういうかたが、もっともつとふえてほしいものと私は思っています。

残る時間が、少なくなつてまいりました。きょう皆さまの前に立ちまして、このあたりで、皆さまがたが喜ばれるお話、あるいはご参考になるようなお話ができればよろしいのですが、私はそんなお話ができるうつわではございません。

しかし、折角の機会でありますので、私がかときき思い出し、親しい友だちに語る話をさせていただきます。

大阪府の知事に、左藤義詮という人がいま

した。お東さんの寺の住職で、大谷学園の理事長兼校長でしたが、戦後、衆議院一回、参議院に三回当選し、防衛庁長官になったこともあります。昭和三十四年、大阪の知事になり、万国博を成功させました。

この人、話も上手でしたが、筆もたち、何冊かの随筆集をものしています。

「もとより、アクの強い現実の政治には、対立や闘争は避けられない。悲しいことや腹の立つときも尽きそうにない。逃げかくれせず、負うべき責任には男らしく立ち向かうが、最後の判決は摂理のままに随従しよう。（中略）どれほどもつれた難局でも及ぶかぎりの手だてをつくしたあとは、ぜったいベッドまで持ち帰らない。そもそもこの世で起ったことで、この世で片づかぬはずがあるうか。われとわが根情さえ治しえぬ凡夫が、いくらじたばたしたって万人の心まで自由にしうるはずがない」

昭和三十九年に、新聞の宗教欄に書かれたものです。

私が思い出すのは、左藤さんを補佐していた人から聞いた話です。

左藤さんは、口ぐせのように、次の言葉をいつていたそうです。

「さすが宗教家と、ほめられるのは、おほかたつかないが、あいつ坊主のくせにと、仏法にまで傷をつけぬよう、それだけが自戒で

ある・・・」

「あいつ、坊主のくせにー」私も、そう
いわれないようにしようと、思っているの
であります。

平成三年度活動報告

会員四十八人のうち二十七人から活動報告
書の提出がありました。なお、首長は①欄は
空白となります。また解答の記載がない場合
は空欄とした。

この文は、講師が講演の原稿に加筆さ
れたものです。(事務局)

- ① 所属委員会
② 本年度取り組んでいる事柄
③ 今後取り組みたい課題
④ 僧侶の首長、議員として特に留意し
ていること。

楯 大亮
北海道 南富良野町長 5期
北海道・上川南・玄正寺住職

桜田 正弘
北海道 北見市議 6期
北海道・北見東・本覚寺衆徒

① 総務教育常任委員会、監査委員

② 公正、公平な市政に留意している

③ 柴田 薫心
北海道 札幌市議 4期
北海道・札幌・宝流寺住職

④ 総務委員会
自由民主党札幌市連合会幹事長の立場に
なり、都市の自民党の活性化にとりくむ。

③ ④ 大都市への移行にともない、交通、道
路の諸問題

④ 雪対策(スパイクタイヤ禁止にともな
い)

④ ゴミの問題

政治の世界の中にも、手を合わす心を忘
れない道を歩む。

花本 肇正
富山県 大島町議 4期
高岡・射水・称念寺住職

① 総務常任委員会

② 議会運営の課題と政党間・地域間の関
係

③ ④ ボランティア活動
住いの環境整備による躍進町政
新幹線と在来線存続問題

④ 宗教者として、はじることのない議員、
資質向上

中村 幸教
石川県議 5期
石川・島崎山・光徳寺衆徒

① 厚生委員会

② 教育問題

③ 環境問題
④ 宗教心の育成と仏教

嶋田 政憲
福井県 勝山市議 2期
福井・福井・本覚寺衆徒

① 建設常任委員会
中部縦貫自動車道路建設の促進と地元町
に建設予定のインターチェンジの促進に
取り組んでいる(用地交渉に伴う国、県、

③ 地元とのパイプ役)
住みよい環境造り
水道、下水道の整備
心豊かな人づくり

④ 誠実、清潔でありたい

中田 宗人 岐阜県 明方村議 4期
岐阜・郡上・円光寺住職

① 総務文教委員会、観光開発特別委員会

② 二十一世紀を展望した若者の夢のもてる地域の創設に努力したい。

③ 高齢化社会に向けた環境整備（温泉湧出による保養施設等）と福祉活動の推進

④ 宗教をとおした政治を繁栄させる。

松井 靖典 岐阜県 河合村長 1期
岐阜・飛騨・願教寺住職

① 夏に雪を利用してのイベントの開催、

② 宿泊施設整備、スキー場整備。

③ ○「みどり」と白銀かわいむらんど」をキヤッチフレーズに「かわいむら」の知名度を高めること。

○パーカッション（打楽器）を中心にフイーチャーした音楽祭

④ 常に僧侶としての自覚を忘れないこと。

山田 真澄 三重県 東員町議 8期
東海・員弁・浄源寺住職

① 経済土木委員会

② ○下水道事業が本格化した（総予算百二十億円・平成十七年完成）ので財源の

確保のため財政の洗いなおしを行って
いる。

○総合グランド完成を目指して取り組んでいる。

③ 健全財政と積極的な行政水準の向上

安藤 智純 三重県 尾鷲市議 3期
東海・勢南・光円寺住職

① 総務常任委員会、文化会館建設特別委員会

② 文化会館建設についてー基本設計、実施設計の検討、審議ー。

③ ○二十一世紀を展望する視点の模索と課題の整理について

④ ○福祉行政の在り方
今の時の道俗、己の分を思量せよ

堅田 昭磨 滋賀県 高島町議 1期
滋賀・高島・慈敬寺住職

① 総務常任委員会

② 青少年問題ー将来各分野で活躍するであ

③ ろう青少年の健全育成について、今皆で
考えなくては。

黒田 昭信 滋賀県議 1期
滋賀・犬上南・教得寺住職

① 土木企業委員会、文化体育委員会

② 高齢者、障害者問題（ノーラマイゼイション）

③ 社会教育（地域社会における若者との活動、その中に宗教を）、巾広く青少年活動の場（大きい意味）づくり

④ 宗教問題をあらゆるところに自然にとり込めるよう。

西殿 香連 和歌山市議 9期
和歌山・和歌山・西正寺住職

①

②

③

④

永原 智徳 和歌山県 由良町議 2期
和歌山・日高・教専寺住職

① 厚生文教副委員長

② 特別養護老人ホーム施設、合併処理浄水槽等

③ 福祉センターの施設

④

小泉 玲子 兵庫県 御津町議 1期
兵庫・網干・浄泉寺衆徒

① 福祉厚生委員会

- ② 福祉の向上に努力したいと思っています。
③ 調和のとれた政治を——と考えています。
④

経谷 隆道 兵庫県 南光町議 6期
兵庫・佐用・西蓮寺住職

- ① 経済土木常任委員会
② 補場整備事業の完成
③ 下排水施設、浄化槽設置工事の進捗を
はかる

- ③ 小学校校舎の改築、体育館の新築
④ 町行造林の整備
⑤ JR徳久駅前の整備
⑥ 国道一七九号線バイパスの建設
⑦ 民族資料館の建設
⑧ 町史編纂事業
⑨ 老人憩いの家の建設
⑩ スポーツ公園に併設して墓地公園をつ
くること

- ④ 戦没者追悼式挙行の方法について、仏
式で行うように指導する。

松元 顕正 島根県 仁摩町議 3期
山陰・仁摩・松原寺住職

- ① 総務、文教委員会
② 福祉、教育
③ 福祉、教育の充実及び議員の研修

④ 行政も議員もあると仰言いますが倫理、
モラルの問題、しっかりした人生観のな
い首長や議員はテクニシャン（行政技術
の）であつても行政マンではない。議員
の若手には仏社会に入ることをする首
長や老議員には寺参りをすすめている。

竺川 紹隆 島根県 金城町議 2期
山陰・福屋・浄光寺住職

- ① 経済常任委員会
② 新交通時代への対応
③ 高齢化（少子化）対策
④ 政教の問題

大前 勝乗 香川県 坂出市議 6期
四州・飯山北・善光寺住職

- ① 総務常任委員会、鉄道高架促進特別委員
会
② 現在進めている鉄道高架事業の推進に重
点をおいた議会活動を行っている。

本市の鉄道高架事業は、北側仮線方式に
より実施するが、現在この用地買収も六
十パーセント程度完了しており、平成四
年度には仮線に切り替える予定となつて
いる。したがつて、鉄道高架事業の早期
完成を図るため、この北側仮線に係る用
地買収の早期完了と仮線時における交通
渋滞の緩和などを委員会活動等を通じて

働きかけていく所存である。

また、鉄道高架事業の完成時期は、平
成九年度を見込んでいますが、今後予算の
増額などにより可能な限り早期完了に努
めていくよう求めていくとともに、鉄道
高架にあわせた南北駅前広場整備及び市
街地再開発の実施と充実を働きかけてい
く所存である。

- ②と同じ

藤谷 光信 山口県議 1期
山口・岩国・教蓮寺住職

- ① 文教警察委員会
② 環境問題と道路交通網の整備
③ 岩国基地（米軍飛行場）の移設問題
④ 岩国市へ民間航空のり入れ
⑤ 県立施設の岩国市への誘致

秋里 勝道 山口県 美東町議 3期
山口・美祢東・明楽寺住職

- ① 総務委員会
②
③
④

川越 証真 山口県 美祢市議 6期
山口・美祢西・西音寺住職

① 教育福祉委員会

② 学校教育の正常化

③ 産業地域の振興

④ 美祢市人口過疎化の歯止め

⑤ 基本計画への取り組み

⑥ 折にふれ、宗教への理解を求める

⑦ 念仏の心を内に宿した議会運営

林川 昭 福岡県 豊前市議 2期
北豊・上毛・明泉寺住職

① 文教厚生委員会

② 老人の福祉

③ 人権の尊重される学校、地域社会づくり

④ 特に考えていない。ただ、地方自治体で

は最近宗教的行為（例えば地鎮祭、山び

らき等に神事を行う等）が増加している

ことについて常に注意をしている。

衛藤 龍夫

大分県 久住町長 3期

大分・岡・安照寺住職

① 別府久住リゾート構想の中、久住町に

② おいてのホテルとゴルフ場の建設。

③ 和牛の増数、改良による大分県一の和

④ 牛生産地。

③ 中央公民館（附保健センター）建設

（今年7月完成）による社会教育、健

④ 康教育、福祉活動を連係しての総合住

⑤ 民福祉活動。

⑥ 豊かな農村整備事業（集落排水、公園

⑦ 等）

⑧ 「事業は人なり」と言いますが、町も

⑨ 職員、議員、住民その交通整理がうま

⑩ くでなければ、何もできない。

⑪ 形にとらわれず、本音を察して接す

⑫ ことだと思います。

國東 利行 大分県 宇佐市議 1期
大分・宇佐・極楽寺住職

① 文教社会委員会

② 教育予算の増額

③ 文化財保護

④ 福祉、ゴム問題

⑤ 東西別院のある四日市地区の町づくり

⑥ が計画されている中で、外観的町づく

⑦ りと共に根本的な民法との関係につい

⑧ て考えていきたい。

⑨ 政治の中に文化性をとり入れていき

⑩ い。

⑪ 習俗（宗教）の問題

前原 弾邵

熊本県 深田村長 4期

熊本・球磨・善正寺住職

①

② 企業誘致（ゴルフ場）

③ 土地改良事業

④ ②と同じ

⑤ 和を以て貴となす

⑥ 対話の行政

尾前 新了 宮崎県 椎葉村議 4期
宮崎・椎葉・浄行寺住職

① 総務常任委員会

② ひえつきの郷づくり

③ 福祉施設の充実（病院の改築並びに特別

④ 養護老人ホームの建設）

⑤ 言行をつつしみ忘己利他につくすこと。

平成三年度 総会報告

一、日時 平成三年六月五日（水）

午前九時から十二時四十五分ま

で

二、場所 宗務総合庁舎三階和室・洋室

三、開会式 〇真宗宗歌 〇代表世話人挨拶

〇総長挨拶

四、総会

① 議長選出 竺川紹隆

② 平成二年度事業報告

③ 平成二年度決算報告

（承認）

（承認）

④平成三年度事業計画案 (可決)

⑤平成三年度予算案 (可決)

⑥規約一部変更について

龍谷顕真会規約第三条文中、「なお、本会を退会した者(前会員)を賛助会員とする」の条文並びに、第十条「並びに賛助会員」の条文を削除する。(可決)

⑦世話人の選出

楯 大亮(北海道 南富良野町長)

花木肇正(富山県 大島町議)

黒田昭信(滋賀県議)

西殿香連(和歌山市議)

竺川紹隆(島根県 金城町議)

大前勝乗(香川県 坂出市議)

藤谷光信(山口県議)

川越証真(山口県 美祢市議)

林川 昭(福岡県 豊前市議)

荒木月秋(佐賀県議)

尾前新了(宮崎県 椎葉村議)

以上十一人を選出

⑧代表世話人の選出(再任)

川越証真(山口県 美祢市議)

⑨会計監査員の改選(再任)

山田真澄(三重県 東員町議)

永原智徳(和歌山県 由良町議)

五、講演 「実説・坊さんのいる風景」

関西女子美術短期大学教授

太田信隆先生

六、座談会 「僧侶の首長、議員として考えること」

座長 竺川紹隆

平成三年度

世話人会報告

一、日 時 平成三年六月四日(火)
午後三時から五時まで

二、場 所 宗務総合庁舎会議室六
三、会議内容

①平成二年度会計報告

②平成二年度事業報告

③平成三年度予算報告

④平成三年度事業計画について

⑤世話人・代表世話人・会計監査員選出について

⑥規約変更について

事務局より変更案を提示、了承。総会に提案することになった。

⑦その他

退会世話人、久富武士氏へ
記念品伝達

会員の動静

(新入会員)

櫻田正明(北海道議)

北海道・北見東・本覚寺衆徒

松井靖典(岐阜県河合村長)

岐阜・飛騨・願教寺住職

堅田昭磨(滋賀県高島町議)

滋賀・高島・慈敬寺住職

黒田昭信(滋賀県議)

滋賀・犬上南・教得寺住職

谷川正秀(兵庫県尼崎市議)

兵庫・阪神西・万徳寺衆徒

波多正文(兵庫県尼崎市議)

兵庫・阪神南・正光寺住職

小泉玲子(兵庫県御津町議)

兵庫・網干・浄泉寺衆徒

藤谷一剣(島根県辺見町議)

山陰・益田・蓮長寺住職

荒木月秋(佐賀県議)

佐賀・松浦・尊光寺前住職

(退会会員)

藤沢大紀(兵庫県香住町議)

波多正響(兵庫県尼崎市議)

堀川晃尚(兵庫県揖保川町議)

経谷隆道(兵庫県南光町議) 八月退会

松井允人(愛媛県城辺町議)

奥村耀朗(岡山県真備町議)

久富武士(福岡県方城町議)

井上了誠(大分県本耶馬溪町議)

黒木隆之(鹿児島県志布志町長)

『龍谷顕真会報』(第11号) 平成三年(一九九二)十月三十日発行 編集・発行 浄土真宗本願寺派 総局公室(広報)内 龍谷顕真会事務局